

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600027		
法人名	社会福祉法人 秋桜会		
事業所名	グループホームうさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644-1		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の希望(散歩に行きたい、好物を食べたいなど)を尊重し、できるだけ叶えられるよう支援している。知人、家族との電話や手紙のやりとりを積極的に支援し、孤独を感じさせぬケアに努めている。また、不安そうにされている方には寄り添って傾聴し、少しでも安心され笑顔で過ごしていただけるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は玄関やスタッフルームに掲示し、ホームページにも掲載しており、職員にも浸透していることがうかがえる。ほとんどの利用者がホームでの看取りとなっており、家族の信頼も厚い。近隣との関係性ができており、旬の野菜を届けてくれる人がいたり、近隣のスーパーマーケットやガソリンスタンドなども協力関係を築いている。利用者がひとりで散歩に出かけてもサポートをしてもらえるなど連携ができています。食事は職員による手作りで栄養のバランスを考慮している。新型コロナウイルス対策は徹底しており、職員のPCR検査や家族との窓越しでの面会を実施している</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表玄関、裏玄関、スタッフルームに理念を掲示し、それに基づき事業計画を作成している。また、理念に基づいたケアが実施できるよう会議を行い、全職員で取り組んでいる。	理念は玄関、スタッフルームに掲示し、ホームページにも掲載し周知している。職員にも根付いており、利用者の希望を尊重し、これまでの習慣を継続できるように支援している。管理者は「困っていることがあったら教えてください。」と声をかけることを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方がよく野菜を届けて下さる。また、散歩中の利用者に優しく声をかけて下さる。しかしコロナ禍の現在は、外出や交流を控えている。	地域のスーパーマーケット、ガソリンスタンド、米店、美容院などを利用して、近隣も利用者を見守ってくれている。今年度は中止となったが、夏祭り、保育園との交流会などにも参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と協力しながら、コスモス劇団を作り、小学校などで認知症の劇をするなど、認知症の方を理解してもらえよう働きかけている。しかしコロナ禍の現在は、外部との交流は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2カ月に1回開催している。活動報告、意見交換からサービス向上に活かしている。(コロナ禍の現在は書面で開催)	今年度は書面開催としているが、運営推進会議には市担当者、民生委員、町内会・老人会代表、利用者家族などが参加している。運営状況の報告、事故・ヒヤリハット報告、テーマを決めての意見交換などをして、議事録は参加者に送付し職員にも回覧している。	運営推進会議の書面開催の良い点は日時に左右されず参加可能であることである。この機会にたくさんの利用者家族にも参画してもらい、意見を収集し、家族にも議事録を配布することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも、市の職員や長寿会会長に参加していただき、実情を報告している。	管理者は市の担当課と密接に連携を取っており、直接コミュニケーションを図っている。現在は中断しているが、市の介護相談員が1か月に1回来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、抑制をしないことが当たり前と認識し、実践している。法人内の研修において具体的な行為も正しく理解している。日頃のケアの中で拘束にあたる可能性のあるものは、話し合って見直している。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、理念や基本方針、体制、対応手順、研修体制を明示している。身体拘束適正化委員会は運営推進会議の後に同じ参加者で開催している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで高齢者虐待防止の知識を高め、常に注意をはらい防止に努めている。また、法人内で年に4回身体拘束廃止委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は内部研修などで制度について学ぶ機会があり、必要な時は活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、管理者が書類を開いて十分に説明させていただき、不安や疑問なく納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの要望には、できるだけ応えられるように努めており、家族からの意見、苦情も随時受け入れている。家族会で意見を反映する機会もあるが、コロナ禍の現在は中止している。	家族会は法人本部と協働しており、意見を把握する場となっている。また、面会や電話の時に家族の意見を聞いている。家族などの意見から、敬老会で着物を着たり、ミニ喫茶メニューに抹茶を加えるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、スタッフ会議、管理者会議にて、現場の意見を聞いたり、互いの課題を見出す機会がある。	月1回のスタッフ会議で意見交換している。職員は申し送り時にも意見を出している。理事長が年1回職員と個人面談をして、直接意見を聞いている。職員の意見や要望でシフトを調整したり、介護用品を購入するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の意見や提案に耳を傾け、常に職員の働きやすい環境をと心を配り、職場環境、雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に合わせた講習、内部研修に積極的に出席してもらい、スキルアップに努めている。喀痰吸引研修修了したスタッフもいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会(コロナ禍前)や、資格取得のための研修で、同業者との意見交換や情報交換をし、サービスに活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談し、要望や不安なことを聴き取り、その情報を全職員が共有し、統一した安心できるサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事、不安な事または要望を丁寧に聴き取るとともに、密に連絡を取り合う事で安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談により、どのような支援を必要としているかを見極め、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	誕生会や、季節のイベントなどを一緒に楽しんだり、家事や買い物等の日常生活を共にしている。しかしコロナ禍の現在は外出を控えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の前は、イベントを手伝ってもらったり、外出や受診にも付き合っていたり、面会があった。現在は、家族の面会は窓越しで実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方との電話や、手紙のやりとりも支援している。現在、訪問は窓越しの面会で協力してもらっている。	コロナ禍以前は、家族や友人の来訪がよくあり、歓迎していた。現在は窓越しで面会したり、電話で話をするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮するなど、利用者同士が良好に関わり合える場面をつくるお手伝いをしている。万が一トラブルとなった場合は、納得されるまで傾聴している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や生活を気にかけて、退所後の家族の相談にもものっている。退所後も手紙をくれたり、福祉用具を寄付して下さるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対し、常に関心を持って会話をしたり接することで、本人の思いや希望、意向を把握しケアプランに反映させている。	職員は日々のケアの中で思いや意向を把握するようにしている。意思疎通を図ることが難しい場合は、家族からかつての生活状況を聞き、本人の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや家族に、本人の生活歴や希望の暮らし方をできるだけ詳しく聴き取っている。本人にも会話の中で希望を聴き取り、生活に取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状況を把握し記録として残し、全職員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員がつき、月1回モニタリングを行い、スタッフ会議で検討した内容も含めてケアプランに反映させ、本人、家族に説明し了解を得ている。	利用者ごとに担当職員がつき、モニタリングで毎月の様子を記入し、ケアプラン作成時に反映させている。思いや意向、日常生活の状況は、全体・利用者毎・医療系の3冊のファイルを用いて職員間で共有している。また介護計画は定期的に見直し、体調の変化が見られた際には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルを医療、生活、家族連絡に分けて、小さな気づきを全職員で共有し、ケアに活かせるよう努めている。必要に応じケアプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	9名中8名が24時間対応の訪問診療所を利用して、急な体調不良にも対応できる。また本人と家族の希望から、訪問マッサージを毎週利用するなど、ニーズに応じて柔軟に対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域のイベントは中止されている。法人のイベントの作品展では、広々とした古民家を借りて、個々で作品展を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中8名は訪問診療所を利用して、24時間体制で医療が受けられるようになってきている。その他の1名は近くの総合病院にスタッフが毎月付き添って定期受診に行っている。	訪問診療は月2回、看護師は週に2～3日の勤務で健康管理をしている。24時間のオンコール体制もできている。診察時まで、医師に聞きたいことなどを職員が書式にまとめて、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に利用者の日常の状態や、気づいたことを随時報告、相談している。看護職は利用者の体調を確認し、必要に応じて主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、職員が面会し本人の状態等確認していたが、現在コロナ禍の為面会できない。家族や病院の地域連携室と情報交換し、連絡・相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を重視し、重度化や終末期のケア方針について、本人、家族、主治医と十分に話し合い決定している。	「入居者が重度化したり急性増悪の状態変化があった場合の指針」を整備しており、入居時に家族に説明し希望を聞いている。終末期の兆候があった場合には、その都度家族に意向を確認している。ホームでは看取りに力を入れており、ほとんどの利用者がホームでの看取りとなっており、家族からの信頼も厚い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、急変時の対応に備えている。急変時・事故発生時の対応についての内部研修も行っている。またスタッフ会議で適宜緊急時の対応方法を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災(日中・夜間)、地震の避難訓練をマニュアルに基づいて行っている。また、地域の避難訓練にもスタッフが参加している。	年3回、夜間想定を含めた火災、地震、自然災害の避難誘導訓練を実施している。災害用に飲料水、食料を備蓄し、リストで賞味期限管理をしている。発電機は法人として有している。近隣住民との関係は良好で、災害時の利用者の見守りなどを依頼できる関係性がある。	近隣住民との関係は良好であり、予め非常時における役割を依頼してもよいと思われる。自治会との協力体制や地域の避難訓練などへの参加も有効と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけを行っている。本人の思いには常に共感を持って傾聴し、入浴や排泄時にはプライバシーに配慮して介助している。	職員は、個々に合わせて歌を歌ったり興味のある話をするなど、一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。また、プライバシーに関する事業所内研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりから、本人の希望や思いを聴きだし、利用者側から決定できるような声掛けをしている。コロナ禍の為、家族と中々会えないので、家族に手紙を送ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を見ながら体操やアクティビティのお誘いをしたり、日光浴や散歩の声掛けをし、気分転換してもらっている。本人のペースに合わせて、押し付けにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなものを選んで着てもらっている。コロナ禍の為、現在訪問美容は中止している。上手なスタッフが代わりに髪をカットして身だしなみを整えている。たまには髪にアクセサリを付けておしゃれしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのもの、食べたいものを聴き、メニューやおやつに取り入れている。お誕生日には、その方の食べたいものを昼食にお出ししている。畑で育てた野菜と一緒に収穫している。	近所からきのこや旬の野菜の差し入れもあり、職員が肉、魚、野菜のバランスを考慮し、手作りで提供している。利用者の希望でカレーやお蕎麦なども取り入れ、食事が楽しくなるよう支援している。盛り付けや食器拭きなどに参加する人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、適した量や形態で提供し、食事量・水分量はチェック表を用いて把握している。食事がすすまない方には、ご飯がすすむようにフリカケや漬物を添えたり、旬の果物も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄・歯みがきなど、利用者に合わせた口腔ケアを行っている。自分では難しい方には介助して行っている。必要に応じて訪問歯科に診てもらっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人のトイレに行くタイミングに合わせて排泄支援している。また、衛生面に配慮したサポートをしている。	排泄状況を記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。様子を見て声掛け、トイレ誘導をし、自立に向けた支援をしている。また、清潔保持も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、その方に合った対応をしている。水分量少なめの方には、甘い飲み物やゼリーを提供したりして、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気持ちを尊重し、入浴日や時間をずらしたりして提供している。女性には同性介助で安心して入浴していただいている。なお、ゆず湯やみかん湯を提供することもある。	週2回の入浴ができるように支援している。立位が難しい利用者も浴槽に入ってもらいたいとの思いで、二人体制で支援している。入浴をしたくないという利用者には好きな話題で話をしながら誘導するなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいとの希望があれば、自室でゆっくり休んでいただいている。夜間、ゆたんぼを使用し心地良く入眠できるようにしている。室内に濡れタオルを干して、乾燥防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった場合は、医療ファイルに記入し、その薬の説明書をコピーし、スタッフ全員が回覧して薬の目的や副作用が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、散歩の好きな方、歌が好きな方、体操の好きな方、それぞれの残存能力を考慮しながら、生活歴や好みに合った活動を日々提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前はラーメン・うどん外食や、家族と一緒にパフェやソフトクリームを食べに行っていたが、現在はコロナ禍の為、外出を控えている。	コロナ禍のため現在は外出を自粛しているが、以前は外食に出かけていた。スーパーマーケットに買い物にも行っていたが、現在は移動スーパーを利用している。また、近隣の散歩をしたり、日光浴や外気浴で気分転換を図っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自宅の金庫持参で入居した方がいる。何千円かでも持っていたい方は、自分の財布を所持している。スタッフもその方の持つ不安を理解し、お金の所持の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族の声が聞きたい」「電話したい」と言われた時、すぐ電話できるように家族と連携をとっている。家族からの手紙や写真を大事にしている方には、家族からたくさんいただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りの壁飾りを貼ったり、モチーフを吊るしている。日光浴がお好きな方には、日当たりの良い席にご案内している。寒いときには、すぐにひざ掛けが使えるようにリビングに常備している。	利用者と職員が一緒に折り紙やちぎり絵で季節感のある飾りを作成して、リビングに飾っている。また、清潔であることを心がけ、加湿機能付きの空気清浄器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士を近くに、静かな環境を好む方には、皆から少し離れた席に座っていただくなど、各々の性格や気持ちにそった居心地の良い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひ孫の写真を家族からいただき、アルバムを作り、いつでも見られるように自室に置いている。人形が好きな方には、お気に入りの人形といつも一緒にいられるように支援している。	家族の写真や位牌を持ってきている人もおり、それぞれ自分らしい部屋作りをして、入居前の暮らしに近い環境が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように、ドア付近にネームプレートを掛けたり、トイレにも「トイレ」と分かりやすく書いたプレートを掛けている。廊下には手すりを設置し、安全に歩けるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと